第１回 燕市産業振興協議会 議事録

日　時：令和８年８月２５日(火)
15 時 00 分 ～ 16 時 30 分
会　場：市役所４階 会議室 401

参加者：細川委員（燕商工会議所　会頭）
星野委員（つばめ商工会　会長）
中島委員（つばめ商工会　副会長）
小林委員（日本金属洋食器工業組合　理事長）
鳥部委員（協同組合つばめ物流センター　代表理事）
本間委員（燕商工会議所　工業部会　部会長）
山村委員（燕商工会議所　女性部会　部会長）
平出委員（つばめ商工会　商業部会　部会長）
後藤委員（つばめ商工会　工業建設部会　部会長）
外山委員（第四北越銀行　燕支店長）
池内委員（協栄信用組合　理事長）
富樫委員（巻公共職業安定所　所長）
澁川委員（公益財団法人燕三条地場産業振興センター　専務理事）
松崎委員（日本労働組合総連合会 新潟県連合会 県央地域協議会
議長）
佐野委員（燕市長）
遠藤委員（燕市副市長）

事務局：産業振興部長、商工振興課長他

会議次第：
１．開　会

２．市長あいさつ

３．議　題
(1) 燕市の今年度事業の展開等について（報告）
燕市産業振興部商工振興課より燕市の今年度事業の展開等について報告があった後、質疑応答を行った。

(2) 地場産業成長プランについて

燕市産業振興部商工振興課より地場産業成長プランの概要について説明があった後、質疑応答を行った。

(3) 新年度施策に向けた意見交換

■事業承継・技術承継について

・事業承継・技術承継については、具体的な支援策については市役所で検討いただいたうえで、民間の意見も取り入れていただきながら進めていただきたい。

・(サプライチェーンについて) 1人の外注さんがいなくなると、仮にそこに10件くらいがお願いしていたとしたら、全部が内製化するとなると10台の機械と10人が必要になる。何にも経験がない人を一から育てるということをみんなが一緒に経験しているような状況。個々の企業の取り組みだけでは限界がきている。

・洋食器をやっている人は職人技術の機械化、内製化を進めていて、職人の技術でなく機械でと内製化して設備投資をしている気概のある経営者もいらっしゃった。

・事業承継したはいいが、古い建物や設備も引き継いでいるため、その改修工事や設備の入替などに莫大な費用がかかるというケースを耳にする。そういったことで引き継げないという問題も浮上しているよう。新たな事業というかたちでの補助金はあるにしても、継承すること(とその企業)に対しての補助金というのがたぶん今はないのでは。そういった支援があればありがたいと思う。

・技術承継についていうと、当機関で刃付けのデジタル化に成功した。現在、他の業種、対象の業務を広げるようなかたちで研究を進めている。

・事業承継調査の結果が出れば課題が明らかになってくると思うので、そこに対して円滑に事業承継を進めていくための政策パッケージというのを用意してもらえると、一層、課題が解決に向かうのではないかと思う。その過程で、金融機関とも意見交換させていただきながら政策パッケージをつくっていけたらと思っている。

■人材確保・外国人雇用について

・人材の確保を危惧しており、外国人の採用に舵を切っている。現状でも住宅の手当等していただいていると思うが、これは全国で競争になると思うので、例えば東京でのイベント参加なども市でバックアップするなどしてやっていっていただきたい。今、全国平均で外国人比率が 3～4%のところ、燕は 1%を少し超えてるくらいだと思うのでまだまだ少ないと感じている。

・最近はフィジカル AI というものが出てきているので、人材不足に対して従来の日本人、外国人、それからフィジカル AI を駆使してものづくりをしてい

くというのも一つあると思っている。
・人材の確保・定着は非常に課題になっている。自社の場合は入ってくるのは入ってくるが、定着率が悪すぎることで、シフトダウンせざる得ない状況になっている。この業界はどこも同じ状況と聞いている。
・新潟労働局が新規学卒の 3 年以内離職率を調査しているが、新潟県平均で 3～4 割、特に事業所規模が小さい企業ほど離職率が高いという結果が出ている。入社後のフォローや職場環境の改善、相談しやすい体制づくりが必要だと感じている。
・外国人の雇用については、来年 4 月から育成就労制度が導入される予定となっており、外国人材から選ばれる地域、企業ということで、従業員の家族や生活面での支援、日本語学習の支援などそういったところで力を入れていく必要があると思っている。

■新事業展開について
・燕市の予算で工業部会として日本機械学会に参加してくる。自分の興味のある講義を聞けて、直接教授と名刺交換ができて、ダイレクトに質問ができたりするということで、通常の産学連携よりも要は話しが早い。学会の使い方というかそのあたりを勉強してきたい。それがまた自社の新たな可能性、ステージへのチャレンジの役に立ち、結果的に産業の創出につながればと思う。

■DX・AI・品質管理について
・先月からチャット GPT を導入して、様々なものを作成した。ハルシネーションもあるので裏取りはしているが、ぱっとつくってくれるという点ではすごいことになっているなと感じている。
・DX では会議所工業部会も共催というかたちで一緒にやらせてもらっている。DX 認定は隣の三条市ではあまり聞かないところなので、ネットワークを活かしてこの地域はなかなかやるなというふうになっていければいいなと思っている。
・SBT 認証や DX は非常に大事なものだと思っている。だいぶ前には ISO を取得することで企業差別化ということもあったが、これを取ることでまずは営業戦略としていいなと思っている。
・DX 計画策定補助金を利用してだいぶ頭の整理ができた企業が多くなってきたと思うので、このあと実際 DX の実行段階になったときにホップ・ステップというかたちで支援があればありがたいと思っている。

■知財について
・ある企業の方から聞いたが、中国で自社のコピー製品がつくられており、スペックが全く一緒だったとのこと。コピー品は一見わからない瑕疵が含ま

れていることもあるので、燕ブランドの価値を下げることにつながりかねない。意匠登録や商標登録を申請するというのはもう必須なのかもしれないが、やはり費用が高額になるので、燕ブランドを守るためにも市や商工会議所などで支援していただくと助かる。
・知的財産権というと上の世代は真似して真似されて、が当たり前の考えだったが、今は違うので、そういったところにまずはセミナーをやって、きちんとそういうのは守りましょうという認識を持つのも大切だと思う。情報をより良く発信していただいて、ブランドを地域で守るという対策を進めていただきたい。

■金融施策について
・マル経資金のニーズが非常に高いとのことだが、継続するのであればマル経資金（利子補給金）だけでなく例えば市の制度融資などでも支援してもらえるようお願いしたい。
・信用保証料補給の補給率の引き上げは本当に皆さんが助かっていて、これが呼び水になって利用していただいた方がたくさんいる。3月までとなっているが、もし継続するのであれば信用保証協会でやっている「サステナブル診断保証制度（通称Ｓスコア）」も対象に含めていただくよう検討していただきたい。

■商業振興について
・ある地区の祭りではどちらかというと地元の人が祭りに参加しない現状がある。商業としてどうやったら地域が盛り上がるかと考えたときに、まずは地元の人が祭りに参加するといったことも必要なのかなと思った。吉田のトコマルシェは定期的に開催し、地元から買ってもらうという仕組みでやっていて、そういった取組も必要なのかと思っているところ。
・地元の同業者から聞いた話だが、体育館で大きな大会があったときに、常連さんのチームから弁当の注文が入り、そのついでに少し余計につくってそこで売ろうと考えたが、市の許可が必要と言われた。商業系は厳しい状況が続いているのでこういうちょっとしたチャンスに売上を重ねていくことが大事だと思う。大量に売るならまだしも、少量売るのにも毎回届出を提出するのは大変なので、できれば市には柔軟な対応を検討いただきたい。

■その他
・先日、台湾の企業と話をする機会があった。台湾と日本で同じものをつくったときに、最低賃金が若干低い台湾のほうが安く造れると思っていたが、小～中ロットであれば日本のほうが安かった。その理由を聞いてみたら、台湾だとその商品をつくるのに５工程かかるところ、日本だと１工程でできる

と。技術ではまだ戦える、価格競争できると感じた。
・ステンレスを軸に成長戦略を立てたらいろんなところから外貨を稼げるのではないかと思う。例えば何百人もいる大企業ではなく、もう少し小さくてもいいのでメーカーを誘致する。この地域はサプライヤ、部品加工屋は多くいるので、少ないメーカーを誘致してもらって、輸送コストが発生するのをなくすためにも、ここでメーカーにつくってもらうことも検討いただけたらと思う。
・地場産センターの売上は好調で上がっているが、費用もかかっているので、利益でいうと横ばいか少し下がっているくらい。売上の１割が海外のお客さんで、その半分が台湾の方、またそのだいたい半分が中国の方。台北の旅行社には必ず１人は日本語が話せる人がいるそうで、そのくらい台湾としては日本の旅行に力を入れていると聞いている。

４．その他
　事務局の人事異動について報告があった。

５．閉　会